



ルートマップ

この章では、ASA のルートマップの設定方法とカスタマイズ方法について説明します。

- [ルートマップについて \(1 ページ\)](#)
- [ルートマップのガイドライン \(3 ページ\)](#)
- [ルートマップの定義 \(3 ページ\)](#)
- [ルートマップのカスタマイズ \(4 ページ\)](#)
- [ルートマップの例 \(6 ページ\)](#)
- [ルートマップの履歴 \(7 ページ\)](#)

ルートマップについて

ルートマップは、ルートを OSPF、RIP、EIGRP、または BGP ルーティングプロセスに再配布するときに使用します。また、OSPF ルーティングプロセスにデフォルトルートを作成するときにも使用します。ルートマップは、指定されたルーティングプロトコルのどのルートを対象ルーティングプロセスに再配布できるのかを定義します。

ルートマップは、広く知られた ACL と共通の機能を数多く持っています。両方に共通する主な特性は次のとおりです。

- いずれも、それぞれが許可または拒否の結果を持つ個別のステートメントの順序シーケンスです。ACL またはルートマップの評価は、事前に定義された順序でのリストのスキャンと、一致する各ステートメントの基準の評価で構成されています。リストのスキャンは、ステートメントの一致が初めて見つかり、そのステートメントの一致に関連付けられたアクションが実行されると中断します。
- これらは汎用的なメカニズムです。基準照合と一致解釈は、適用方法とこれらを使用する機能によって決定します。同じルートマップであっても異なる機能に適用されると、解釈が異なる場合があります。

次のように、ルートマップと ACL には違いがいくつかあります。

- ルートマップは ACL よりも柔軟性が高く、ACL が確認できない基準に基づいてルートを確認できます。たとえば、ルートマップはルートタイプが内部であるかどうかを確認できます。

- 設計規則により、各 ACL は暗黙の deny ステートメントで終了します。照合中にルートマップの終わりに達した場合、そのルートマップの特定の適用によって結果が異なります。再配布に適用されるルートマップの動作は ACL と同じです。ルートがルートマップのどの句とも一致しない場合は、ルートマップの最後に deny ステートメントが含まれている場合と同様に、ルート再配布が拒否されます。

permit 句と deny 句

ルートマップでは permit 句と deny 句を使用できます。deny 句は、ルートの照合の再配布を拒否します。ルートマップでは、一致基準として ACL を使用できます。ACL には permit 句と deny 句もあるので、パケットが ACL と一致した場合に次のルールが適用されます。

- ACL の permit + ルートマップの permit : ルートは再配布されます。
- ACL の permit + ルートマップの deny : ルートは再配布されません。
- ACL の deny + ルートマップの permit または deny : ルートマップの句は一致せず、次のルートマップ句が評価されます。

match 句と set 句の値

各ルートマップ句には、次の 2 種類の値があります。

- match 値は、この句が適用されるルートを選択します。
- set 値は、ターゲットプロトコルに再配布される情報を変更します。

再配布される各ルートについて、ルータは最初にルートマップの句の一致基準を評価します。一致基準が満たされると、そのルートは、permit 句または deny 句に従って再配布または拒否され、そのルートの一部の属性が、set コマンドによって設定された値で変更されます。一致基準が満たされないと、この句はルートに適用されず、ソフトウェアはルートマップの次の句でルート进行评估します。ルートマップのスキャンは、ルートと一致する句が見つかるまで、もしくはルートマップの最後に到達するまで続行します。

次のいずれかの条件が満たされる場合は、各句の match 値または set 値を省略したり、何回か繰り返したりできます。

- 複数の match エントリが句に含まれる場合に、特定のルートが句に一致するためには、そのルートですべての照合に成功しなければなりません（つまり、複数の match コマンドでは論理 AND アルゴリズムが適用される）。
- match エントリが 1 つのエントリの複数のオブジェクトを指している場合は、そのいずれかが一致していなければなりません（論理 OR アルゴリズムが適用される）。
- match エントリがない場合は、すべてのルートが句に一致します。
- ルートマップの permit 句に set エントリが存在しない場合、ルートは、その現在の属性を変更されずに再配布されます。



- (注) ルートマップの **deny** 句では **set** エントリを設定しないでください。 **deny** 句を指定するとルートの再配布が禁止され、情報が何も変更されないからです。

match エントリまたは **set** エントリがないルートマップ句はアクションを実行します。空の **permit** 句を使用すると、変更を加えずに残りのルートの再配布が可能になります。空の **deny** 句では、他のルートの再配布はできません。これは、ルートマップがすべてスキャンされたときに、明示的な一致が見つからなかったときのデフォルトアクションです。

ルートマップのガイドライン

ファイアウォールモード

ルーテッドファイアウォールモードでのみサポートされています。トランスペアレントファイアウォールモードはサポートされません。

その他のガイドライン

ルートマップは、ユーザー、ユーザーグループ、または完全修飾ドメイン名のオブジェクトを含む ACL をサポートしていません。

ルートマップの定義

ルートマップを定義する必要があるのは、指定したルーティングプロトコルからのどのルートを対象ルーティングプロセスに再配布できるのかを指定するときです。

手順

ルートマップのエントリを作成します。

```
route-map name {permit | deny} [sequence_number]
```

例：

```
ciscoasa(config)# route-map name {permit} [12]
```

ルートマップのエントリは順番に読み取られます。この順序は、*sequence_number* 引数を使用して指定できます。この引数で指定しなければ、ルートマップエントリを追加した順序が ASA で使用されます。

ルートマップのカスタマイズ

ここでは、ルートマップをカスタマイズする方法について説明します。

特定の宛先アドレスに一致するルートの定義

手順

ステップ1 ルートマップのエントリを作成します。

```
route-map name {permit | deny} [sequence_number]
```

例：

```
ciscoasa(config)# route-map name {permit} [12]
```

ルートマップのエントリは順番に読み取られます。この順序は、*sequence_number* オプションを使用して指定できます。この引数で指定しなければ、ルートマップエントリを追加した順序が ASA で使用されます。

ステップ2 標準 ACL またはプレフィックスリストに一致する宛先ネットワークを持つ任意のルートを照合します。

```
match ip address {acl_id [acl_id] [...] | prefix-list prefix_list_id [prefix_list_id] [...]}
```

例：

```
ciscoasa(config-route-map)# match ip address acl1 acl2 acl3
```

複数の ACL またはプレフィックスリストを指定する場合、ルートは任意の ACL またはプレフィックスリストと一致します。

(注)

プレフィックスリストは、OSPF ではサポートされていません。

ステップ3 指定したメトリックを持つ任意のルートを照合します。

```
match metric metric_value
```

例：

```
ciscoasa(config-route-map)# match metric 200
```

metric_value には、0 ~ 4294967295 の範囲が指定できます。

ステップ4 標準 ACL と一致するネクストホップルータアドレスを持つ任意のルートを照合します。

```
match ip next-hop acl_id [acl_id] [...]
```

例：

```
ciscoasa(config-route-map)# match ip next-hop acl2
```

複数の ACL を指定する場合、ルートは任意の ACL を照合できます。

ステップ 5 指定されたネクスト ホップ インターフェイスを持つ任意のルートを照合します。

match interface *if_name*

例：

```
ciscoasa(config-route-map)# match interface if_name
```

2 つ以上のインターフェイスを指定する場合、ルートはいずれかのインターフェイスと一致します。

ステップ 6 標準の ACL と一致するルータによってアドバタイズされた任意のルートを照合します。

match ip route-source *acl_id* [*acl_id*] [...]

例：

```
ciscoasa(config-route-map)# match ip route-source acl_id [acl_id] [...]
```

複数の ACL を指定する場合、ルートは任意の ACL を照合できます。

ステップ 7 ルート タイプを照合します。

match route-type {**internal** | **external** [**type-1** | **type-2**]}

ルートアクションのメトリック値の設定

ルートが **match** コマンドで一致する場合は、次の **set** コマンドによって、ルートを再配布する前にルートで実行するアクションが決まります。

ルートアクションのメトリック値を設定するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 ルートマップのエントリを作成します。

route-map *name* {**permit** | **deny**} [*sequence_number*]

例：

```
ciscoasa(config)# route-map name {permit} [12]
```

ルートマップのエントリは順番に読み取られます。この順序は、*sequence_number* 引数を使用して指定できます。この引数で指定しなければ、ルートマップエントリを追加した順序がASAで使用されます。

ステップ2 ルートマップのメトリック値を設定します。

set metric *metric_value*

例：

```
ciscoasa(config-route-map)# set metric 200
```

metric_value の引数は、0~294967295 の範囲で指定できます。

ステップ3 ルートマップのメトリックタイプを設定します。

set metric-type {*type-1* | *type-2*}

例：

```
ciscoasa(config-route-map)# set metric-type type-2
```

metric-type 引数には *type-1* と *type-2* があります。

ルートマップの例

次の例は、ホップカウント1でルートをOSPFに再配布する方法を示しています。

ASAは、これらのルートをメトリック5、メトリックタイプ1で外部LSAとして再配布します。

```
ciscoasa(config)# route-map 1-to-2 permit
ciscoasa(config-route-map)# match metric 1
ciscoasa(config-route-map)# set metric 5
ciscoasa(config-route-map)# set metric-type type-1
```

次に、メトリック値が設定されたEIGRPプロセス1に10.1.1.0のスタティックルートを再配布する例を示します。

```
ciscoasa(config)# route outside 10.1.1.0 255.255.255.0 192.168.1.1
ciscoasa(config-route-map)# access-list mymap2 line 1 permit 10.1.1.0 255.255.255.0
ciscoasa(config-route-map)# route-map mymap2 permit 10
ciscoasa(config-route-map)# match ip address mymap2
ciscoasa(config-route-map)# router eigrp 1
ciscoasa(config-router)# redistribute static metric 250 250 1 1 1 route-map mymap2
```

ルートマップの履歴

表 1: ルートマップの機能履歴

| 機能名 | プラットフォームリリース | 機能情報 |
|---|--------------|--|
| ルートマップ | 7.0(1) | この機能が導入されました。 route-map コマンドが導入されました。 |
| スタティックおよびダイナミックルートマップのサポートの強化 | 8.0(2) | ダイナミックおよびスタティックルートマップのサポートが強化されました。 |
| ダイナミックルーティングプロトコル (EIGRP、OSPF、RIP) のステートフルフェールオーバーと一般的なルーティング関連動作のデバッグのサポート | 8.4(1) | debug route 、および show debug route コマンドが導入されました。 show route コマンドが変更されました。 |
| マルチコンテキストモードのダイナミックルーティング | 9.0(1) | ルートマップは、マルチコンテキストモードでサポートされます。 |
| BGP のサポート | 9.2(1) | この機能が導入されました。 router bgp コマンドが導入されました。 |
| プレフィックスルールの IPv6 サポート | 9.3.2 | この機能が導入されました。 |

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。